



# 学校だより

1月号



～友だちいっぱい 夢いっぱい 未来へ向かって かがやく星の子～

## 一人ひとりのよさを認め合う

校長 西山 久美子

新しい年がスタートしました。例年より少し長い17日間の冬休みも終わり、今日から学校が再開です。本年もどうぞよろしくお願いいたします。今年は大きな災害の発生に心の痛む年明けとなりました。この度の令和6年能登半島地震により、被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げますとともに、皆様の安全と被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

学校では、今年度のまとめの3か月、子ども達とともに一日一日を大切に過ごしてまいります。

さて、下校時に昇降口付近で子ども達を見送っていると、朝の「おはようございます。」の声と同じか、それ以上の元気な声と笑顔で「さようなら。」が響きます。そんな明るい挨拶を聞くと、今日も一日楽しく過ごせたよ、いろいろなことをがんばったよ、という心の声も聞こえてきそうで、嬉しい気持ちでいっぱいになります。

ところで、ある教室に「自分のよいところ」を書いた短冊が掲示されていました。走るのがとくい、元気にあいさつするところ、優しいところ…一人ひとりの顔を思い浮かべながら、そうそう！と思わず微笑んでしまいます。その掲示コーナーには、子ども達のきらきらと輝く姿が映し出されているようで、読んでいただけで幸せな気持ちになりました。自分のよいところを自分で認めること、そしてそのよさを自信にして、さらによい姿を目指すことは、とても大切なことなのだと思います。

また、別のある教室を覗いた時、ひらりと落ちた色紙を素早く拾い、大切そうにファイルに収めた子がいました。見せてもらうと、他学年のペアからのメッセージカードです。行事の前後に、他学年のペアとメッセージカードを交換することがありますが、カードに記された励ましの言葉や感謝の気持ちは、もらった子の心に届き、行事に向けてがんばってきた自分に大きな「はなまる」をもらえた気持ちになるのではないのでしょうか。他にも、帰りの会に今日よかったことを伝え合っているクラス、号令をかける日直が「〇〇さん、姿勢がいいです。」と言葉をかけているクラスなど、いろいろなところで互いのよさを伝えている場面がたくさんあります。それらが、一日の学校生活の中で積み重なり、気持ちのよい一日の終わりの「さようなら。」に表れるのかもしれませんが。

すべての星の子達が「自分には、こんなよいところがある。」「以前に比べてこんな力がついている。」「がんばった自分を誇りに思う。」と胸を張って生活してほしいと願っています。そのためには、一人ひとりのよさを認め合える環境づくりが重要になってきます。ほめる・励ますのプラスメッセージを大切に、学校目標でもある「未来へ向かってかがやく星の子」のために、温かい上星川小学校でありたいと、年頭にあたり思いを新たにしております。引き続き、職員一丸となって力を尽くしてまいります。

令和6年が子ども達、そして上星川小学校を支えてくださるすべての皆様にとって、希望に満ちたよい1年になりますよう心から願っております。本年も、かがやく星の子達と本校教育活動への温かいご支援をいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。